

身近で楽しいエコ活動、大集合!!



沼津市生活環境部環境政策課

沼津市御幸町16番1号  
電話:055-934-4741



実施報告書



- 主催 / 沼津市
- 後援 / 静岡県、静岡県地球温暖化防止活動推進センター  
沼津市自治会連合会、省エネ推進ネットワークぬまづ
- 協賛 / 南駿農業協同組合、沼津市商店街連盟  
沼津仲見世商店街振興組合、沼津大手町商店街振興組合



## 目次 Index

ごあいさつ	02
沼津市長 栗原 裕康 審査員長 服部 乃利子	
コンテスト発表チームのご紹介	
金 賞 西沢田子供会	03
銀 賞 江原	04
銅 賞 東名町子供会	05
審査員特別賞 新沢田町子供会	06
チーム明電	07
入 賞 愛鷹地区コミュニティー推進委員会エコ推進部会	08
環美・富士の山	09
片浜地区コミュニティー推進委員会	10
審査員のご紹介・応募チームのご紹介	11
緑のカーテン写真コンクール表彰式	13
開催レポート	14
エコ展示会	15
らんま先生のエコ実験ショー	17
電気自動車試乗会	18

## ごあいさつ

### 沼津市長



くりはら ひろやす  
**栗原 裕康**

私達は電気、ガス、自動車を使って便利で豊かな生活をしています。それは、産業革命以来、化石燃料と言われる石油、石炭、天然ガスを燃やしてエネルギーに変えてきたからです。しかし、これらの化石燃料を燃やすと二酸化炭素などの有害物質が発生し、温暖化や大気汚染など深刻な環境問題を起こします。そのため、各国で知恵を出し合い地球環境対策を考えていますが、良い解決策が見つかりません。それは先進国とこれから豊かな生活をしようとする発展しはじめた国々とは、経済活動を含め考え方が異なるからです。このままではますます地球環境が悪くなってしまいます。

私は沼津市長就任当初より「環境を大切に作る沼津市を作ろう」というテーマで「エコのまち沼津」の推進に努めてきました。この「ぬまづエコ活動コンテスト」をきっかけとして、沼津市の皆さんの精力的な取り組みにより、エコ活動の輪が広がり始めています。沼津で始まったエコ活動の輪が静岡県、日本、世界へと広がれば素晴らしいことです。私たちのしていることは、地球規模から見れば僅かなことかもしれませんが、それでも積み重ねていくことで地球を守っていく活動になればと期待しています。

### 審査員長



はっとり のりこ  
**服部 乃利子**

第3回ぬまづエコ活動コンテストの成功、おめでとうございます。

昨年度も第1回よりエントリー数が増えたとお聞きしていましたが、第3回の今年も多数のエントリーがあったとのこと。「エコのまち沼津」のとおり、エコ活動が市民の皆さんに浸透してきているのだなと感じました。今回、一次審査に残られたチームのすべてが、自治会、子供会の皆さんによる取り組みだったという事を見て、ますますその思いを強くしました。

活動の輪を広げ、継続していくには、「伝える力」も必要です。発表された8チームの皆さんは手作りのオリジナルパネルを作成されるなどそれぞれが上手に工夫し、取組んだ活動をいかに伝えるかをしっかり考えていらっしゃいました。素晴らしいかったです。

今回のコンテストでは、初めて聞く内容の取組みではなく、無理をせず日々の中で取組めるエコ活動にはいろいろな形があるということを改めて見せていただきました。またそれを、子供たちがキラキラ輝いた目で生き生きと発表してくださっていた事も、とても魅力的でした。

このコンテストが回を重ねることにより、エコ活動に取り組む輪がますます大きく広がっていくことを期待しています。





## 西沢田子供会

緑で守ろう！  
蛍のいる町 西沢田

西沢田自治会は世帯数1,454世帯、人口3,410人、子供会105人を抱え、市内でも数箇所しかないダム（西川ダム）を抱えた自治会です。昔は多くのホタルが生息していた西沢田自治会と金岡ホタル部会とが協力して、本格的なホタル育成活動がスタートしたのが2012年2月からです。西川田んぼ脇の小川にて、体長約2.5cmのカワニナを2時間で7.5kg採取。カワニナへのエサやり(キャベツ・クレソン・白菜など)を行い、ホタルの幼虫放流。放流前には、パネルを使ってホタルのことを学びました。ホタル観賞会は6月9日～11日開催(参加者150名)し、西沢田地区以外からも参加者がありました。ホタルの数は20頭ほどしか見られませんが、1頭舞うたびに歓声があがり、ホタルの幻想的な光に魅了され盛り上がりました。これからも育成活動の定着・継続を経て、「ホタルが見られる町 西沢田」を目指します。「夏が来ればホタルが見られる」そんなワクワクした気持ちとともに季節を味わえる西沢田へ。そして子供会だけではなくホタルを通じ、自然・環境保護の大切さを再確認していきたいです。



## 江原

みんなでなかよく  
エコライフ

江原地区は沼津駅北側、国1バイパスの南側、金岡小学校を取り囲むように位置しています。世帯数600世帯、人口1,500人、子供会50名で構成されています。私たちの取組みは「どのくらい、環境にやさしい生活ができているのか?」という視点から毎日の生活を思い浮かべて、6つの項目をチェックし、各家庭のエコ度を検証するため、子供会37世帯にアンケートを配布し、結果をまとめました。アンケートの各設問に「いつも気を付けている・時々気を付けている・気を付けていない」の3つの中から1つ選択してもらいました。たとえば、◎買い物には、バッグを持参していますか?の設問では、53%の人が時々気を付けているを選択しました。◎残り物の味噌汁やスープを流しに捨てていませんか?の設問では、捨てていないと回答した人がわずか20%と意識の低さが目立ちました。◎使っていない電化製品のコンセントは抜いていますか?の設問では、いつも抜いていると回答された方は13%でした。○総合評価として40%の人がエコに対する関心が高いことがわかりました。しかし関心がない人も40%いました。今後の活動としてできることからエコ活動に取り組んでいくこととしました。



Q2. 買い物には、バッグを持参していますか?



★ 何でも利用できるバッグを利用しましょう  
レジ袋の日本での使用量は、年間約313億枚とされています。これを1人当たりの使用枚数に換算すると、年間にして約260枚! 資源の無駄遣いを減らすために、買い物にはマイバッグを持参して過剰包装を避ける買い方をしましょう。

エコ活動への取り組み内容

どのくらい、環境にやさしい生活ができているか?  
毎日の生活を思い浮かべて、下記の項目をチェックし、各家庭の「エコ度」を検証!

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 1. Shopping | 3. Living   |
| 2. Kitchen  | 4. Bathroom |
| 5. Car      | 6. Office   |



## 東名町子供会 東名町クリーン作戦

東名町は沼津市北部に位置し、名前の通り東名沼津I.C.、伊豆縦貫道の出入り口にあり、世帯数681、人口約1,300人、子供会88名の自治会です。沼津市金岡小学校のなかでも大きな子供会です。東名町クリーン作戦と題し3つの活動を行っています。まず各家庭から出される違反ゴミを少しでも減らそうと子ども達の意識を高めるため、エコ新聞を作成しました。昨年度と今年度の分別ゴミを比較すると分別違反件数は半分に減っています。新聞作成をきっかけに子ども達の分別ゴミ意識が高まったようです。今後も分別ゴミ違反「0」、CO<sub>2</sub>排出量減少を目指します。また、限りある資源をリサイクルしようと30年以上前から古紙の回収に取り組んでいます。そして、東名町の子ども達は金岡小学校へバス通学していることから、日頃の感謝を込めてバス停の清掃活動に取り組んでいます。この他、たまごパックを重ねて切って捨てることで10分の1に圧縮できたり、捨てられないゴミは購入時に捨てるなど、子どもの小さな気づきから未来へつなげる環境作りに取り組み、活動の輪を広げていきます。



## 新沢田町子供会 エコバッグを作って ゴミを持ち帰ろう!パートⅡ

新沢田町は南のリコー沼津事業所、明電舎沼津事業所、北の国1バイパスの内側に位置する、世帯数565世帯、人口2,500人、子供会約50人の自治会です。近年高層マンションの増加に伴い、若い世代の力が自治会活動に大きく貢献するようになりました。新沢田町は雨量が70ミリを超えると洪水被害が発生することもあり、地域の人たちとの密接な協力関係が必要になります。そこで小さな子供からお年寄りまで一緒に取り組める活動としたいエコバッグ作りの実施を考えました。町内のエコ祭りで新聞紙エコバッグを作り、ゴミを持ち帰ろうという活動で、お祭りで出るゴミを家庭に持ち帰り、ゴミの減量と子供たちの環境意識の改善を目的にしました。これにより、昨年秋祭りと比較して30%のゴミ減量を達成しました。今回のエコ活動によって、環境美化をはじめ、ゴミ分別を学ぶことで、これまで以上に、エコに対する意識が高まったと感じます。今後も、新沢田町自治会のエコ活動を習慣づけるため、引き続き、自治会と子供会とで協力し、環境の大切さを伝える活動に取り組んでいこうと考えています。





## チーム明電

### できることからはじめよう! 地球のために!

明電町は、世帯数70世帯、人口185名、子供会7名と金岡地区でも比較的小さく、企業の社宅・独身寮が多い自治会です。エコ活動の進め方として、ワークショップに参加し、みんなの知恵を集め、エコ活動の勉強会をしました。また、小さな子ども達も理解できるよう「エコってなあに?」と題した子供向けの勉強会も実施しました。具体的な取組みとしては、企業主催の環境実験室への参加や、お風呂の残り湯で公園の花壇のヒマワリへの水やりをおこない、種を収穫するなど緑化への関心を高めました。また、節電ポスターを作り地域でエコ活動を盛り上げたり、公園等の清掃に参加したりしました。エコキャップの回収では、8名分のワクチンを届けることができました。また夏祭りでは、「おさがりバザー」を開催。リサイクルの意識等エコを意識した生活の定着につながりました。小さな町内ですが、これからも、町内全体で、自分たちのできることを考え、続けて行こうと思います。



## 愛鷹地区コミュニティー 推進委員会エコ推進部会

### 愛鷹地区グリーンカーテン展開作戦

愛鷹地区連合自治会は、25自治会、約6500世帯、16,800人で構成されています。愛鷹山を背に、東に金岡地区、西に浮島地区、南に原地区に接しています。エコ推進部会では、自分たちでできることを考え「グリーンカーテン展開作戦」を実施しました。暑い夏を少しでも快適に過ごせる環境作りで、平成24年度にはグリーンカーテン用にゴーヤやアサガオなど2,000株の育成をしました。育てた苗は、自治会を通して希望者へ無料配布。グリーンカーテンコンテスト開催のPR用に地区センターにもグリーンカーテンを設置し、小学生含むボランティアで管理育成しました。放送班、広報班、グリーンカーテン班に分かれグリーンカーテンの育成、コンテストの告知等をポスターにし、自治会の行事等を活用して、エコ活動の推進をしました。エコ活動部員の活躍で全応募数71件の応募になりました。また、コミュニティ祭りで全応募作品を展示、優秀な作品の表彰をしました。活動を通じ、年配の方から子どもまで世代を越えた助け合いができ、子供たちに育てる大切さを教えることもでき、生きがいを感じて取り組んでいただきました。





## 環美・富士の山

### 海をきれいに環境保全 スチロールを拾え

「環美・富士の山」は総勢18名で活動しています。今回のエコ活動では特に発砲スチロールを含めたプラスチック類の海岸への漂着ゴミに注目しました。紙は1か月、木で10年、カンでも450年で分解され自然に還ると言われていますが発砲スチロールを含めたプラスチックゴミは永久に自然に還ることなく、海洋を浮遊し毒性のあるものを生物が誤って食することもあり、やがて人間の口に入る恐れすらあります。岩場の間、岩の下等足場の悪い海岸ですが片づけなければまた波、風で海に戻され漂流を続けます。1回の清掃活動で沼津市指定ゴミ袋45ℓで30～50個を回収しています。また、流木等は自治会、観光協会、ボランティア、漁協の有志、戸田中学校の生徒らによる海岸清掃活動と合同で協力し、回収しています。今後もエコ活動としてゴミを少しでも拾い集め、海に再び還すことのないようにしていきます。



## 片浜地区コミュニティ 推進委員会

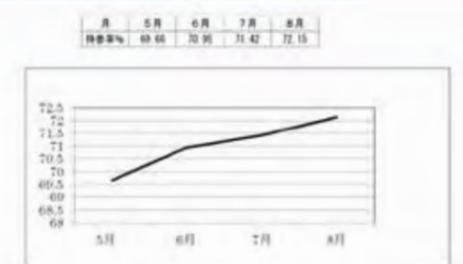
### マイバッグ運動

片浜地区は片浜海岸に面した東西に長い地区で、旧東海道の街道沿いに開けたまちです。「西間門」、「小諏訪」、「大諏訪」、「大諏訪線北」、「松長」の5自治会で構成されています。様々な活動や行事は、各自治会単独での取り組みが主でしたが、平成22年2月「片浜地区センター」オープン後、地区の皆で何かをやりたいとの機運が盛り上がりました。平成23年9月、各地域に「エコ活動推進員」を選任。素案を基に地区全役員120名にアンケート実施し、誰でも参加しやすい「マイバッグ運動」に決定しました。バッグの持参状況を○×△の記号から1つ選んで、1週間ごとに記録し、○(バッグ持参=レジ袋の削減)を集計し、CO2削減量を計算しました。4月を新体制への説明にあて5月から8月までの4か月間実施。運動の成否は住民の参加状況により決まると考え、全員参加を目指し、自治会放送と回覧をフル活用しました。その結果、住民参加状況/参加率 71.2% CO2削減状況/2リットルペットボトル換算 427,501本(1世帯 217本)となりました。この経験を活かし、次年度も引き続き、地域全体の活動に取り組みたいと思います。



チェックシート

バッグ持参率推移



4ヶ月で2.49%とわずかながら増加し、マイバッグ持参の向上傾向が見られます。